日時：2025 年 7 月 21 日（月）18:00～20:00

実施方法：オンライン会議

日本パーソナリティ心理学会第 163 回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長，松田英子副理事長，小塩真司，森 津太子，田中麻未，
外山美樹，武田美亜，川本哲也，中村　真
※審議事項Ⅰ（第 34 回大会について）のみ，佐藤広英大会準備委員長が参加した。

報告事項

I.　理事長挨拶

II.　各種委員会等からの報告

１．機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1)機関誌掲載情報

第 34 巻 1 号　2025 年 7 月刊行予定（2025 年 4 月末までに採択された論文）

原著 6 編，ショート 9 編

原著	2者間でのゼロサム競争中における相対的な成績は動機づけにどのように影響するのか？――競争段階と制御焦点を踏まえた実験課題による検討――	清水 登大
原著	Positive Solitudeがもたらす心理的効果－日本人におけるパーソナリティ特性と社会的ネットワークとの関連性－	屋田 拓臣
ショート	自尊感情の2形態と孤独感の関連―随伴性自尊感情と本来感に注目して―	富井 繭
ショート	心理的リアクタンス特性の2側面―ユニークネス，集団主義との関連に着目して―	木川 智美
ショート	文化的世界観尺度日本語版作成の試み	武田 美亜
原著	完全主義社会的断絶モデルにおける完全主義的自己呈示の役割	辻本 悠
ショート	刑事司法に対する態度と素朴な自由意志信念の関係	向井 智哉
ショート	主観年齢の世代変化-20代から高齢者を対象に-	澤田 奈々実
ショート	抑うつ傾向者の不快情報の記憶のモニタリングに対する情動顕著性効果の検討	高橋 佳史
ショート	ZTPI高頻度短縮版の因子的妥当性と信頼性に関する検討	張 澤
原著	感謝と自尊感情の関連――年齢と心理的負債感による検討――	今泉 里香
原著	レジリエンスの「場」による変動性―日本人勤労者の仕事と趣味，家庭の場に注目して―	上野 雄己
ショート	自己愛傾向が恥への対処スタイルとストレス反応に及ぼす影響――セルフ･コンパッションを媒介として	小林 茉那
ショート	パーソナリティ特性語の社会的望ましさの認知データベースの開発	丹 亮人
原著	援助要請スタイル、シャイネス、心理的適応の関連と性差	橋本 剛

第 34 巻 2 号　2025 年 11 月刊行予定（2025 年 8 月末までに採択される論文を掲載予定）

原著 3 編，ショート 7 編

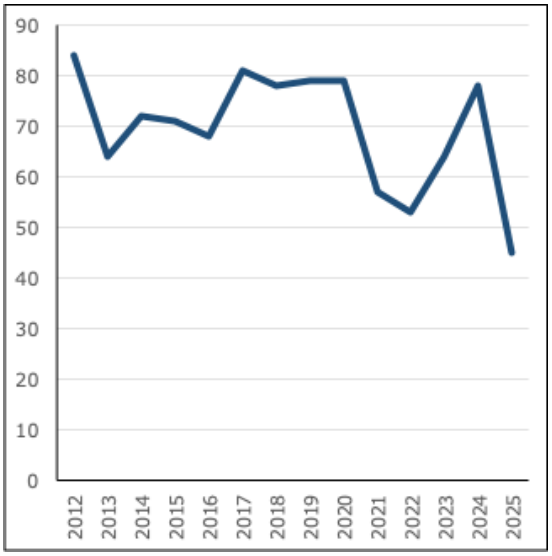
ショート	トラウマ体験を有する成人女性におけるPTSD症状とQOLの関連性の検討－自己客体化の自律性の欠如に着目して－	松岡 優菜
ショート	高校生における社会的達成目標と学校適応との関連――短期縦断的検討――	海沼 亮
ショート	メンタライジングと曖昧さへの態度が社会適応に及ぼす影響	榎木 宏之
ショート	マインドフルネス，胃腸症状に対する非機能的認知，嘔吐に関する回避行動の関連	米田 健一郎
ショート	終末期における安楽死の選択に関する要因――自殺の対人関係理論の観点から	井奥 智大
原著	大学生用日本語版Interest Development Scale（IDS）の作成の試み	本田 真大
原著	日本語版ICD-11 Personality Disorder Severity尺度(PDS-ICD-11-J) の開発	柴田 康順
ショート	リスクテイキング行動に対する心理的特権意識とセルフコントロールの交互作用	澁谷 奏平
原著	心理支援における感染防止対策とクライエントの体験との関連――新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大下の調査から――	福井 晴那
ショート	考え続ける義務感尺度の測定不変性の検討	向井 秀文

⑵編集状況

2025 年 7 月 13 日現在の投稿状況は，以下の図表の通りである旨の報告があった。

※2025 年については，7 月 21 日時点で４８本の投稿があった。

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2024							
1	2			0	0	0	6
2	5			2	1	0	3
3	1			3	0	0	9
4	2			4	0	0	6
5	3			3	0	0	7
6	1			2	0	0	12
7	3			3	0	0	3
8	4			3	0	0	4
9	2			1	0	0	4
10	8			1	1	0	7
11	2			1	0	0	6
12	1			2	0	0	11
計	34	0	0	25	2	0	78
年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2025							
1	3			2	1	0	5
2	7			2	0	0	7
3	1			5	2	0	9
4	4			3	0	0	7
5	3			4	0	0	8
6	4			1	1	0	7
7	2			1			2
8							
9							
10							
11							
12							
計	24	0	0	18	4	0	45



⑶ Editorial Manager 利用の件（前回 第 162 回常任理事会からの継続審議）

現在の J-STAGE 投稿審査システム（Editorial Manager）の運用は，令和 9 年 9 月末をもって終了となり，令和 9 年 10 月より新たな運用となる予定であること，新運用では新たに定める利用要件の充足状況を毎年審査し，採択誌に対して J-STAGE 投稿審査システムを提供するが，利用条件を充足しない雑誌は，ベーシック投稿審査システム（仮称）へ移行になること，パーソナリティ研究は新たな利用要件を充足することが難しい状況であることを再確認した。

以上をふまえて，Editorial Manager の継続利用について機関誌編集委員会で検討した結果，ベーシック投稿審査システム（仮称）へ移行されると，これまでの履歴が消失するなど，損失が大きいとの懸念点が共有されるとともに，機関誌編集委員会としては，可能であれば Editorial Manager の継続使用を希望したいとの意向が示された。併せて，別紙見積書に基づき，継続使用にともなう財務上の負担額について報告があった。

審議の結果，パーソナリティ研究の投稿数，採択数が堅調に推移していることをふまえて，Editorial Manager の継続利用に向けて予算審議等の準備を進めることを申し合わせた。併せて，経費節減の観点からパーソナリティ研究の印刷・配送の継続可否についても並行して検討することを申し合わせた。

2. 経常的研究交流委員会（森委員長）

⑴第 34 回大会の企画について

実施予定について，以下の通り報告があり，招待講演者が急遽来日できなくなったことへの対応について意見交換を行った。

① 招待講演

“Putting Regional Personality on the Map”
＜講演者＞Friedrich M. Götz (Department of Psychology, University of British Columbia)
＜司会者＞吉野　伸哉（公益財団法人医療科学研究所）
※講演者がご都合により急遽来日できなくなったことへの対応について、経常的研究交流委員会としての対応案（オンデマンド配信とすること，大会後に会員全員が動画を視聴できるようにすること，等）が示された。これについて意見交換を行った結果，同案をベースに，質問についてはオンライン・リアルタイムで受け付ける方法を経常的研究交流委員会で継続検討したうえで，最終案を ML 審議に諮ることを申し合わせた。

② 企画シンポジウム
『人が他人を助けるとき　―援助行動研究の新たな視座―』
＜話題提供者＞内山 有美（鳴門教育大学），登張 真稲（文教大学），下司 忠大（立正大学）
＜指定討論者＞小田 亮（名古屋工業大学）
＜司会者＞臼倉 瞳（東北学院大学）

③ MPP 企画
『工夫やコツを教えてください！―大学教員・研究者のゆとりをつくるには？―』

(2)大会外企画について
2026 年 3 月ごろにオンライン開催する方向で検討中である旨の報告があった。

(3)Summer School of Personality Science 2026（SSPS2026）への派遣
2025 年 12 月に募集することを目途に，招待状が届くのを待って対応することを申し合わせた。前回の対応方法を整理したうえで，詳細を次回の常任理事会で検討することとした。

(4)その他
『パーソナリティ心理学事典』（丸善出版）に掲載する「心理尺度リスト」の作成協力について，学会公式サイト内の「心理尺度の広場」にある情報と整理統合し、データベース化する方向で検討したいとの報告があった。

3. 広報委員会（川本委員長）
(1)定例の活動（2025/6/4 から 2025/7/15 まで）
ウェブサイトの更新（0 回），メールニュースの配信（8 回），ML 上での業務調整などの活動内容が報告された。

(2)今後の活動予定（継続を含む）
ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時），委員分担コンテンツの更新を行っていく旨の報告があった。

(3) 2025 年度ヤングサイコロジストプログラム（YPP）
大会ウェブサイト上に，MPP の記載に合わせる形で情報を掲示したこと，日程等は 8 月 1 日に共通して公開されるとの報告があった。

4．褒賞関連事項（外山褒賞担当常任理事）

⑴2025 年度学会賞について

理事からの推薦に基づき，学会賞選考委員会による第 1 次選考を行い，受賞論文の推薦があった。常任理事会において第 2 次審査を行った結果，受賞論文を以下の通り決定した。

受賞者に連絡，会員向けにメールニュースで配信することを申し合わせた。

＜詫摩武俊賞（優秀論文賞）＞

向井智哉・松木祐馬・貞村真宏・湯山 祥・綿村英一郎　著

「特定少年実名報道と原因帰属の相互メカニズム―個人化論の観点から」 第 33 巻 第 1 号

＜奨励論文賞＞

山口天音・敷島千鶴・川本哲也・赤林英夫・安藤寿康　著

「小中学生の学力と Grit の関連――遺伝環境構造から」第 33 巻 第 3 号

⑵優秀大会発表賞について

抄録原稿を対象に，理事による第 1 次選考を行い，以下の表に記載の通り，優秀大会発表賞の候補者が決まったこと，大会 1 日目の 10 月 4 日（土）に，大会参加者による投票で第 2 次審査を行う旨の報告があった。

＜第 1 次選考通過者（優秀大会発表賞候補者）＞

No.	発表タイトル	発表者
21	競技レベルが高かった対人暴力被害者は現在も競技を継続している―被害経験に対する肯定的認知の媒介効果―	豐田隼,尾見康博
34	社会的地位と制御焦点の関連における自己愛の媒介効果の検討―オンライン創作活動に着目して―	★有海春輝,高橋雄介
48	感情的孤独及び社会的孤独の変化 ――2 年間の縦断的研究からの検討――	古村健太郎,相羽美幸,菅原大地,翠川晴彦,櫛引夏歩,白鳥裕貴,川上直秋,太刀川弘和
76	小中学生における Big Five パーソナリティ特性と学校 QOL の関連―交差遅延パネルネットワーク分析を用いた検討―	澤田和輝,澤田和輝,鈴木美樹江,高橋雄介
86	血液型性格診断と MBTI（16personalities）に対する態度の比較（3）―不思議現象に対する態度（78）―	坂田浩之,川上正浩,小城英子
105	Big Five パーソナリティと徒歩で暮らせるまちづくりの関連―2020 年から 2023 年までの大規模縦断データを用いた地域レベルでの検討―	★澤田奈々実,吉野伸哉,小塩真司

★は院生会員

III. 日本心理学諸学会連合（尾見理事長）

国際化に関わるアンケートへの回答について報告があった。決算報告に関して，心理学検定の収入が伸び悩んでいること，日心連としては，同検定を大学院の入試に活用して欲しいとの意向がある旨の報告があった。

審議事項

I. 第 34 回大会について（佐藤広英大会準備委員長）

佐藤大会準備委員長より，各種企画等の準備状況について，順調に推移している旨の報告があった。また，大会スケジュール案が示され，意見交換を踏まえて調整を行った。併せて，大会プログラム暫定版を 7/22 以降に公開予定であるとの報告があった。

II. 「認知行動療法の考え方に基づく心理支援」の診療報酬化に関する要望書について（松田副理事長）

松田副理事長より，別資料に基づき同要望書の趣旨について説明があった。審議の結果，公認心理師の資格取得後の就職口の拡大をはかるための対応（主に病院での心理士の雇用拡大）として，意義深い要望であることを共有したうえで，本学会として賛同することを決定した。

III. 財務関連事項（武田財務担当常任理事）

武田財務担当常任理事より，年会費の再請求状況について報告があった。

IV. メール審議の決裁方法について（尾見理事長）

尾見理事長より，常任理事会のメール審議の決裁方法について審議依頼があり，メール審議の依頼者が 1 週間程度の回答期限を設ける（その旨を審議依頼メールに併記する）こととし，期日までに賛否の意志が示されない場合は「賛成」と見なすこと，回答期限終了後，依頼者が審議終了メールを配信することを申し合わせた。併せて，重要な案件，意見交換を要する案件についてはメール審議ではなく，常任理事会で審議に諮ることを申し合わせた。なお，新入会員の審査については，これまでの決裁方法を踏襲することを確認し合った。

V. 会員の入退会に関する件（田中事務局長）

別紙資料に基づき，入会希望者 5 名（うち 2 名は ML 審議にて承認済み）が示され，審議の結果，入会が追認された。また，退会希望者 1 名が示され，審議の結果，退会が承認された。併せて，宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて，2025 年 7 月 11 日現在，会員総数は 908 名である。内訳は，一般会員 819 名，院生会員 68 名，学生会員 5 名，名誉会員 11 名，賛助会員 5 名である（今回新規に入会が承認された 3 名は含まれない）。

VI. 次回，常任理事会の日程について：9 月 2 日(火)，18:00~20:00 オンライン開催

以上